



時代のニーズにスピーディーに応える「攻めの IT」へ。Microsoft Power Apps ポータル活用で、お客様との窓口になるシステムを 1 か月たらずでスピード開発

お客様

遠鉄システムサービス株式会社
(<https://www.ess.co.jp/>)

製品とサービス

- Microsoft Power Platform
Power Apps
Power Automate

業界
通信

組織の規模
50 ~ 999 人

国
日本

遠鉄システムサービス株式会社は、鉄道やバスなどの運輸事業を中心に百貨店、食品スーパー、不動産、保険、介護等、地域に密着した事業を展開する遠鉄グループの一員として情報システム関連事業、ネットワーク関連事業、ICT 機器販売事業を展開しています。そして今、遠鉄グループ全体で取り組んでいる「デジタルトランスフォーメーション」「生産性の向上」「新ビジネスの創出」という 3 つのテーマを強力に推進するために、遠鉄システムサービスでは「クラウド」と「ローコード開発ツール」「オフショア開発」という 3 つの技術および手法を取り入れるべく調査を実施。その結果、選ばれたのがパブリック クラウドサービスである Microsoft Azure であり、専門知識がなくてもアプリ開発を実践できる Microsoft Power Platform でした。

「新ビジネスの創出」をスピーディーに支えるアジャイル開発に挑戦

遠州鉄道株式会社を中核とする遠鉄グループは、鉄道やバスなどの運輸事業から出発し、現在は百貨店やスーパー、不動産、保険、介護など、地域の暮らしに貢献する多様な分野にわたり、総合生活産業として事業を展開しています。

遠鉄システムサービスは今、遠州鉄道 ICT 推進課 (2017 年設立) と連携し、遠鉄グループの「デジタルトランスフォーメーション」「生産性の向上」「新ビジネスの創出」を担う ICT 利活用の提案・導入などを行っています。

遠鉄システムサービス グループ情報システム部 グループシステム1課 副課長 兼子 直記氏は、「これら 3 つの取り組みを進めるために、解決すべき課題があった」と話します。それが、“スピード感ある開発体制”の実現であり、“これまで遠鉄グループ内で活用して来なかったテクノロジーの調査・検証”でした。



遠鉄システムサービス株式会社
グループ情報システム部
グループシステム 3 課 係長
村松 達之助 氏

遠鉄システムサービス株式会社
グループ情報システム部
グループシステム 1 課 副課長
兼子 直記 氏

遠鉄システムサービス株式会社
グループ情報システム部
グループシステム 3 課 係長
深澤 大亮 氏

遠鉄システムサービス株式会社
グループ情報システム部
グループシステム 1 課
河原崎 大起 氏

「当社ではこれまで、システム全体の機能設計を行ってから開発を進めていく『ウォーターフォール型』の開発しか行ってきませんでした。この開発方法は堅実ですが、非常に時間がかかります。しかし、『新ビジネスの創出』の場合には、時代の変化に則したニーズに、迅速に応えなければなりません。そこで、これまで取り組んだことのなかった『アジャイル開発』を検討することになりました。そのために 2020 年 3 月から『クラウド サービス』と、開発を容易にする『ローコード開発ツール』、そして外部にアウトソーシングする『オフショア開発』という 3 つの要素を重点的に調査することになりました」

システム開発に必要なサーバーリソースを、予算の無駄なく即座に調達できるクラウド サービスは、アジャイル開発の実践においてとても重要なテクノロジーです。これまでオンプレミスでのシステム運用が常であった遠鉄グループにとって、このプロジェクトで初めて各社のクラウド サービスを比較検討することになりましたが、「どのサービスをメインの検討対象とするかは、すぐに決まった」と兼子氏は続けます。

「Microsoft Azure を中心にして検証を重ねていくという方針は、すぐに決まりました。セキュリティや可用性、信頼性を評価したことはもちろんですが、最終的には、当グループ内でマイクロソフト製品を数多く活用しているため、既存の ICT システムと Azure の親和性が高かったことが大きなポイントになりました」

そしてもう 1 つ、同社がアジャイル開発を実践するに際して「ローコード開発ツール」の採用を検討した背景には、「誰でも、どこでも、何でも開発できるツールを導入したい」という経営層の願いがあったと兼子氏は説明します。

「現在取り組んでいるデジタル トランスフォーメーションを加速させ、将来にわたっても当社の変革のスピードを上げていくために、誰でもアプリケーション開発ができる『シチズン デベロッパー時代』へ対応していくことが重要なテーマでもありました。この要望に応えるために、ローコード開発ツールの検討を行いました」

そしてさまざまなツールを比較してライセンスが高額なものなどを候補から外していき、最終的に 3 つのツールを実際にテストして、採用を決めたといま

す。それが、Microsoft Power Platform でした。

開発ツールとしての安定感、技術情報が得られる安心感、そして Power Apps ポータルの必要性

ローコード開発ツールを比較評価した同 グループ情報システム部 グループシステム 3 課 係長 村松 達之助 氏は、Power Platform が「もっとも安定感に優れていた」と評しています。

「当社では 12 年ほど前から開発言語として Visual Basic .NET を活用してきたためにマイクロソフトのツールに慣れてきたということもありますが、Power Platform を実際に触ってみて、ほかのツールよりも『使いやすい』と感じました。もう 1 つ重要なことは、技術情報の入手が容易かどうか、ということです。Power Platform に関しては『Microsoft Learn』や、コミュニティ主催の勉強会などを通じて、ある程度の情報を得ることができるという安心感もありました。しかし、そのほかのツールに関しては、Web でいくら検索しても、技術情報を得ることが非常に困難だったのです」

さらにもう 1 つ、遠鉄システムサービスとして重要視したポイントがあったと、兼子氏は言います。それが「Power Apps ポータル」という機能の存在でした。

「事前に社内で課題の収集を行ったところ『社外向けアプローチ』についてのニーズがとても高いことが分かっていました。その点、Power Apps には、Power Apps ポータルという機能があります。そのため、Web サーバー環境を構築する必要もなく、外部ユーザー向けに公開する Web サービスを、スピーディーかつ非常に低コストに開発できます。これはとても重要なポイントでした」

ローコードツールの特長を活かして、1 か月足らずの超短期開発を実現

こうして遠鉄システムサービスでは、2020 年 6 月に Power Platform に含まれ

る Power Apps、Power Automate の 2 つの製品を活用して、「サブスクリプション契約しているお客様とのリレーションの窓口」となる「保守統合情報ポータル」の開発をスタート。初めて尽くしの開発に関わらず、わずか1か月で完成させ、仮稼働にまで到達しています。

しかも「実質的な開発期間は、さらに短い」と、同グループシステム3課 係長 深澤 大亮氏は話します。

「私たちは、フルスクラッチでシステムを開発することを常としてきましたが、Power Platform の活用の際には、自分たちでコードを書くことは極力避けて、標準機能だけでアプリを開発するように心がけました。初めてのことがかりでしたので、開発に費やした1か月の内、3分の2は情報収集の時間だったと言えるでしょう。今回の経験がありますから、次回以降の開発は、よりスピーディーに進められると思います」

経験豊富な開発者がローコード開発を行った意義について兼子氏は次のように説明します。

「今回開発を担当した村松と深澤には、必要に迫られない限りはコード書かず、ツールの標準機能で開発してもらおうようにお願いしました。コードを書いてしまうと、動作確認のテストを行わなくてはならず、スピード感が損なわれてしまいます。それに、グループ内でシチズン デベロッパーの実践を目指すためにも、ローコード開発のナレッジを積み重ねることが必要です。新しい技術を活用したことで2人には苦勞もかけましたが、おかげで、超短期開発が可能になりました。今後に向けての手応えも十分に感じています」

クラウドの本格活用も視野に、「攻めのIT」への挑戦を継続

遠鉄システムサービスにおけるローコード開発ツールの活用は、まだ試験的な運用が始まったばかりです。しかし、遠鉄グループが取り組む「デジタルトランスフォーメーション」「生産性の向上」「新ビジネスの創出」という3つのテーマに対し、非常に有効なツールであることを強く実感していると声を揃えます。

たとえば、同グループシステム1課 河原崎 大起氏は、「開発を進めながら、クライアントからの非常に具体的な反応を得られることで、手戻りもなくなる」と話します。

「ウォーターフォール型の開発では、設計時にお客様に仕様の確認をとっていても、検収が近づいた段階になって『イメージと違う』と、改修が入る場合があります。しかし、今回の開発では、実際にユーザーであるグループ内のクライアントに都度都度、実際の画面を見ていただきながら確認いただくことができましたので、非常に具体的なフィードバックを、手戻りなくその場で反映させることができました。このスピード感は、間違いなくプラスになると実感しています」

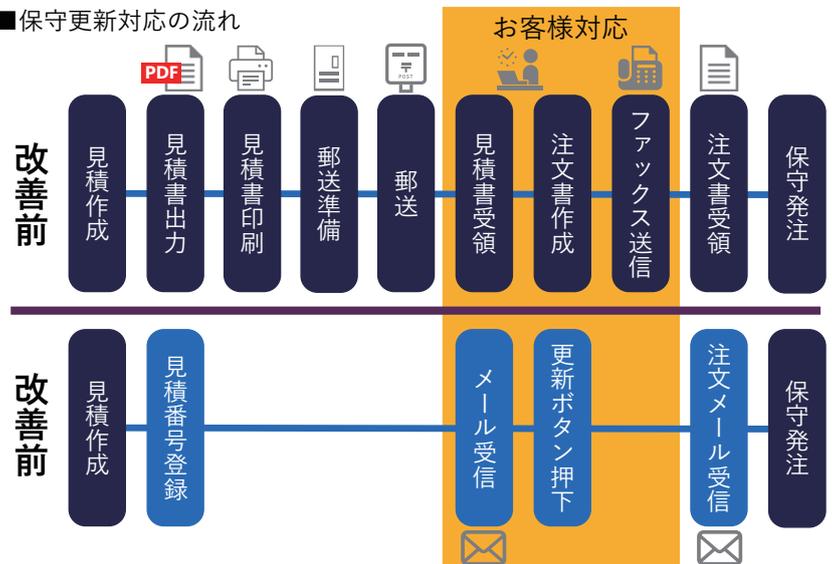
深澤 氏も次のように振り返ります。

「Power Platform については、今まさにユーザーのすそ野が

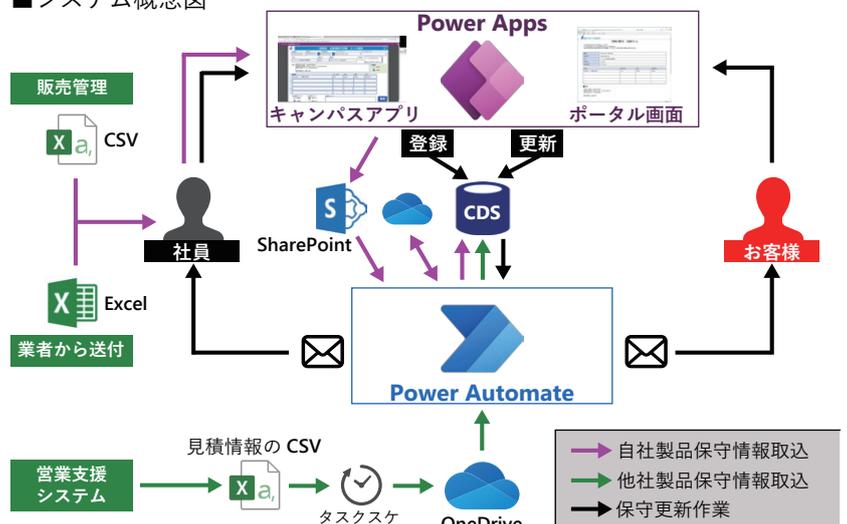
“ 事前に社内で課題の収集を行ったところ「社外向けアプローチ」についてのニーズがとても高いことが分かっていました。その点、Power Platform には、Power Apps ポータルという機能があります。そのため、Web サーバー環境を構築する必要もなく、外部ユーザー向けに公開する Web サービスを、スピーディーかつ非常に低コストに開発できます。これはとても重要なポイントでした。”

—兼子 直記氏：グループ情報システム部
グループシステム1課 副課長
遠鉄システムサービス株式会社

■保守更新対応の流れ



■システム概念図



広がりがつあるのだと思いますが、こうした新しいテクノロジーに触れることができたのは、1人のエンジニアとして非常に楽しい経験でした。私も村松も、コロナ禍にあって80%近くリモートワークしていましたが、Power Platform がクラウド サービスなので、不自由なく開発を進めることができました。それに、河原崎が言ったように、クライアントと話をしながら、その場で手を入れて『これでどうでしょう?』という具合にコミュニケーションできたことも、非常に良かったです」

最後に、兼子氏は言います。

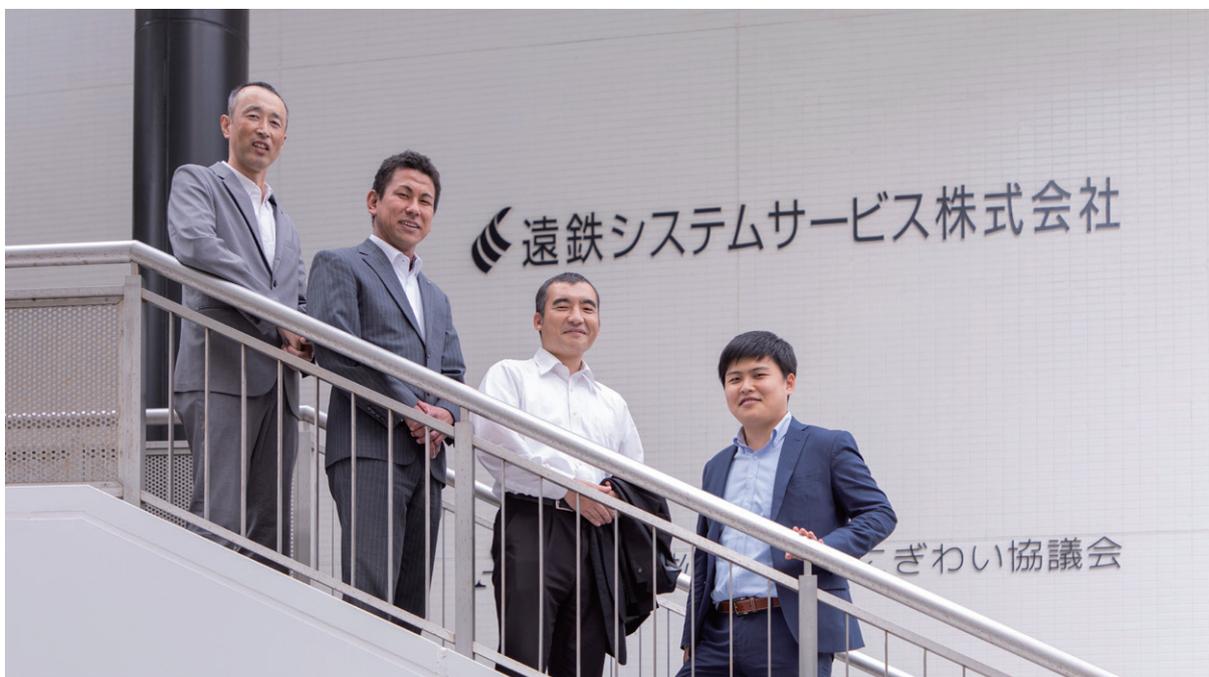
「遠鉄グループにおけるクラウドの本格活用を視野に入れて、今後さらに Azure 活用の検証を進めると共に、適材適所で Power Platform の活用を深めていきたいと思っています。まずは、今回開発したシステムの改良として、ユーザーログイン機能を利用したパーソナライズされた Web 注文機能を作成しています。今回の経験を活かして、今後一層『守りの IT』から『攻めの IT』へと、挑戦を続けていきたいと思っています」

“ Power Platform を実際に触ってみて、ほかのツールよりも『使いやすい』と感じました。もう1つ重要なことは、技術情報の入手が容易かどうか、ということです。Power Platform に関しては『Microsoft Learn』や、コミュニティ主催の勉強会などを通じて、ある程度の情報を得ることができるという安心感もありました。しかし、そのほかのツールに関しては、Web でいくら検索しても、技術情報を得ることが非常に困難だったのです。”

—村松 達之助 氏：グループ情報システム部
グループシステム3課 係長
遠鉄システムサービス株式会社

“ Power Platform については、今まさにユーザーのすそ野が広がりがつあるのだと思いますが、こうした新しいテクノロジーに触れることができたのは、1人のエンジニアとして非常に楽しい経験でした。”

—深澤 大亮 氏：グループ情報システム部
グループシステム3課 係長
遠鉄システムサービス株式会社



お客様事例についてのお問い合わせ

本お客様事例は、インターネット上でも参照できます。<https://customers.microsoft.com/ja-jp/>
本お客様事例に記載された情報は制作当時(2020年11月)のものであり、閲覧される時点では、変更されている可能性があることをご了承ください。
本お客様事例は情報提供のみを目的としています。Microsoft は、明示的または暗示的を問わず、本書にいかなる保証も与えるものではありません。

製品に関するお問い合わせは次のインフォメーションをご利用ください。
■インターネット ホームページ <https://www.microsoft.com/ja-jp/>
■マイクロソフト カスタマー インフォメーションセンター 0120-41-6755
(9:00 ~ 17:30 土日祝日、弊社指定休業日を除く)
※電話番号のおかけ間違いにご注意ください。

*記載されている、会社名、製品名、ロゴ等は、各社の登録商標または商標です。
*製品の仕様は、予告なく変更することがあります。予めご了承ください。

日本マイクロソフト株式会社 〒108-0075 東京都港区港南 2-16-3 品川グランドセントラルタワー